

今シーズンの野鳥2例目！ 北海道の野鳥糞便から高病原性鳥インフルエンザウイルスを検出！！

10月8日に北海道別海町で採取された野鳥の糞便から、高病原性鳥インフルエンザウイルス（H5N1亜型）が検出されました。

野鳥では今シーズン2例目の事例となります。

家きん飼養農場の皆様には、野鳥の侵入防止、鶏舎及び衛生管理区域内の消毒など飼養衛生管理基準に基づく発生予防対策の徹底をお願いします。（裏面参照）

【経緯】

- 10月8日、北海道別海町で野鳥（カモ類）の糞便を採取し、北海道大学でウイルス分離検査を実施
- 10月15日、高病原性鳥インフルエンザウイルス（H5N1亜型）を検出
- 国内複数個所で本病が確認されたため、15日、野鳥サーベイランスにおける全国の対応レベルを「レベル3」に引き上げて、野鳥の監視を強化



飼養衛生管理基準の遵守状況の点検を！

鶏、あひるなど家きん飼養者の皆様へ

家きんを飼われている皆様には、野鳥の侵入防止、鶏舎及び衛生管理区域内の消毒など飼養衛生管理基準に基づく発生予防対策をお願いします。

特に、次の飼養衛生管理基準7項目の遵守状況を点検してください。

- ① 衛生管理区域に立ち入る者の手指消毒等（項目15）
- ② 衛生管理区域専用の衣服及び靴の設置並びに使用（項目16）
- ③ 衛生管理区域に立ち入る車両の消毒等（項目17）
- ④ 鶏舎に立ち入る者の手指消毒等（項目25）
- ⑤ 鶏舎ごとの専用の衣服及び靴の設置並びに使用（項目26）
- ⑥ 鶏舎外での病原体の汚染防止（項目28）
- ⑦ 衛生管理区域内の整理整頓及び消毒（項目32）

発生予防のポイント

農場に入る全ての

人・車両・物品の衛生対策



周囲にはウイルスがあると認識。
農場内・家きん舎内には入れない。

衛生管理区域・家きん舎ごとに
専用の長靴を着用



着替え・履き替えの前後で
交差しないよう境界を明確に。

ウイルスを媒介する

野生動物の侵入防止対策



「農場に近寄らせない」
「農場内に入れない」
「ネズミ・ハエ等の定期的な駆除」